

2024(令和6)年度 沖縄国際大学一般選抜試験問題

【選択科目：日本史 B】

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 志願票及び受験票に記入された科目を解答すること。
3. 志願票及び受験票に記入された以外の選択科目を解答した場合は、無効とする。
4. 筆記用具は、鉛筆（HB）または、0.5 ミリのシャープペンシル（HB）に限る。
5. 問題の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもよい。
7. 試験終了後、解答用紙のみを提出すること。問題冊子は持ち帰ること。

2024(令和6)年度 沖縄国際大学一般選抜試験問題

【日本史B】

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。解答は漢字を基本とします。誤字やかな書きは減点することがあります。

I. 次の史料を読んで、各問に答えなさい。

興死して弟武立つ。自ら使持節都督倭・百済・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事安東大將軍倭国王と称す。

順帝の昇明二年、使を遣して上表して曰く、「封国は偏遠にして、藩を外に作す。昔より祖禰躬ら甲冑を擐き、山川を跋涉して寧処に遑あらず。東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国、渡りて海北を平ぐること九十五国（以下略）」と。（原漢文）

問1 この史料は中国の史書の一部であるが、出典を下記から選んで記号で答えなさい。（2点）

ア. 『後漢書』 東夷伝

イ. 『宋書』 倭国伝

ウ. 『隋書』 倭国伝

問2 この史料の時期の中国は南北に分裂した南北朝時代であったが、北朝の国名を書きなさい。（2点）

問3 この史料に見える南朝の順帝に使者を派遣して朝貢した王の名前を文中から抜き出して書きなさい（A）。また、その人物は誰と考えられているか、天皇名を書きなさい（B）。（各2点）

問4 問3の人物が順帝に使者を派遣した昇明二年は西暦ではいつか、下記から選んで記号で答えなさい（A）。また、埼玉県さいたまの古墳から出土した鉄剣てつけんの銘文めいぶんに見える「ワカタケルの大おお王きみ」は同一人物にあたる。古墳の名称を下記から選んで記号で答えなさい（B）。（各2点）

(A) ア. 391年

イ. 471年

ウ. 478年

(B) エ. 大仙陵古墳

オ. 稲荷山古墳

カ. 江田船山古墳

問5 この史料から問3の人物には倭国王の地位とは別の称号が二つあったことがうかがえる。
どちらか一つを文中から5文字抜き出して書きなさい。(2点)

問6 この史料の上表文に見える「海北」とはどこと考えられているか書きなさい。(2点)

問7 問3の人物を含む倭の五王が南朝に朝貢した目的は何か30字以内で説明しなさい。
(4点)

Ⅱ. 次の文の 1～15 の空欄に入る語句を、語群のなかから選び記号で答えなさい。(各 1 点)

16 世紀前半、近畿地方では室町幕府における主導権をめぐって、(1) を中心とする内部の権力争いが続いていたが、ほかの地方では、みずからの力で (2) をつくり上げ、独自の支配をおこなう地方権力が誕生した。これが戦国大名である。

たとえば中部地方では、16 世紀半ばに越後の上杉氏の (3) であった長尾氏に景虎が出て、(4) 上杉氏を継いで上杉謙信と名乗り、甲斐から信濃に (2) を拡張した (5) としばしば戦った。中国地方では、守護大名として権勢を誇った (6) が、16 世紀半ばに重臣に国を奪われ、さらに安芸の (7) から起こった (8) がこれにかわり、山陰地方の尼子氏と激しい戦闘を繰り返した。

戦国時代には守護職のような古い権威だけでは通用しなくなり、戦国大名として権力を維持していくためには、激しい戦乱で領主支配が危機にさらされた家臣や、生活をおびやかされた (2) の民の支持が必要であった。そのため、新しく服属させた (7) たちとともに、各地で成長の著しかった (9) を家臣に組み入れていった。これらの収入額を、銭に換算した (10) という基準で統一的に把握し、その地位・収入を保障するかわりに (11) を負担させた。これを (10) 制といい、戦国大名の軍事制度の基礎が確立した。また、家臣団に組み入れた多数の (9) を有力家臣に預ける形で組織化した。これを (12) 制という。

また、戦国大名のなかには、(2) 支配の基本法である (13) を制定するものもあった。これらの法典には、(14) ・守護法を継承した法などが見られ、中世法の集大成的な性格をもっていた。その一つとして (15) がある。

【語群】

- | | | | | |
|---------|-----------|---------|---------|----------|
| ア. 関東管領 | イ. 鎌倉公方 | ウ. 地侍 | エ. 惣百姓 | オ. 国人 |
| カ. 守護代 | キ. 寄親・寄子 | ク. 石高 | ケ. 貫高 | コ. 領国 |
| サ. 軍役 | シ. 今川仮名目録 | ス. 律令 | セ. 幕府法 | ソ. 一国一城令 |
| タ. 分国法 | チ. 大内氏 | ツ. 武田信玄 | テ. 毛利元就 | ト. 細川氏 |

Ⅲ. 1～5の建築物に関連すると伝えられる「人物」と所在する「都道府県名」をそれぞれ記号で答えなさい。(各1点)



1 しょうか そんじゅく
松下村塾



2 えんがく じ
円覚寺



3 ひめ じじょう
姫路城



4 とうだい じ
東大寺



5 日本銀行本店

- | | | | |
|---------|-------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 【人 物】 | a. <small>しょうむ てんのう</small>
聖武天皇 | b. <small>ほうじょうときむね</small>
北条時宗 | c. <small>いけ だてるまさ</small>
池田輝政 |
| | d. <small>よし だしょういん</small>
吉田松陰 | e. <small>たつの きん こ</small>
辰野金吾 | |
| 【都道府県名】 | ア. 神奈川県 | イ. 東京都 | ウ. 兵庫県 |
| | エ. 奈良県 | オ. 山口県 | |

Ⅳ. 次の史料を読んで、各問に答えなさい。

第3条 下田、箱館港の外、次にいふ所の場所を左の期限より開くべし。

神奈川（中略）西洋紀元千八百五十九年七月四日

長崎（中略）同断

新潟（中略）西洋紀元千八百六十年一月一日

兵庫（中略）西洋紀元千八百六十三年一月一日

（中略）神奈川港を開く後六ヶ月にして下田港は鎖すべし。此箇条の内に載たる各地は
亜墨利加人に居留を許すべし。（中略）双方の国人、品物を売買する事総て障りなく、其
其方等に付ては日本役人これに立会はず。

第4条 総て国地に輸入輸出の品々、別冊の通、日本役所へ運上を納むべし。

第6条 日本人に対し法を犯せる亜墨利加人は、亜墨利加コンシユル裁断所にて吟味の上、
墨利加の法度を以て罰すべし。 亜墨利加人へ対し法を犯したる日本人は、日本役人^{ただし}の上、
日本の法度を以て罰すべし。

（『大日本古文書 幕末外国関係文書』、原文は縦書き）

問1 この史料にある条約の名称を書きなさい（A）。また、この条約の締結のための交渉を行
った両国の人物の組み合わせとして正しいものを下記から選んで記号で答えなさい（B）。

（A 2 点、B 1 点）

- ア. 堀田正睦^{ほった まさよし} — タウンゼント・ハリス
イ. 阿部正弘^{あべ まさひろ} — マシュー・ペリー
ウ. 川路聖謨^{かわじ としあきら} — エフィム・プチャーチン

問2 この条約が調印締結された時期の日本の年号を二文字で書きなさい（A）。また、日本は
類似した内容の条約をアメリカ以外に4か国と相次いで締結した。その4か国をすべて書
きなさい（B）。（A 2 点、B 各1点）

問3 この条約の調印について正しいものを下記から選んで記号で答えなさい。（1点）

- ア. アメリカ東インド艦隊の2度にわたる来航により、幕府はその威力に屈して調印せざるを得なかった。
イ. 大老井伊直弼^{い い なおすけ}は朝廷からの勅許^{ちよつきょ}を得られないままこの条約の調印を断行した。
ウ. 長崎で開国と国境の画定について協議が行われた。

問4 第3条の下線部に基づき、条約で指定された港に設けられ、外国人の居住が許可された区域を何と呼ぶか書きなさい（A）。また、第3条について正しいものを下記から選んで記号で答えなさい（B）。（A 2点、B 1点）

ア. ここに挙げられている港はすべて期限通りに開港した。

イ. いずれの港にも造船所や軍艦駐留施設が作られ、軍港としての役割を果たした。

ウ. 勅許獲得や港湾整備が難航した結果、開港が明治維新後にずれ込んだ例もあった。

問5 第4条について、正しいものを下記から選んで記号で答えなさい。（1点）

ア. 日本への輸入品の関税率については、アメリカでなく日本に決定権があるとされた。

イ. 日本国内を外国人に開放するかわりに、日本の関税率引き上げが認められた。

ウ. 日本に関税率の決定権がなく、アメリカと協議して定めることになった。

問6 第6条の下線部が規定している内容を30字以内で説明しなさい。（4点）

問7 この条約には1年前に通達を行えば1872年7月以後に改正が可能だと記されていた。諸外国との改正の予備交渉を行った日本の使節団の特命全権大使は誰か、書きなさい。（2点）

V. 次の文の 1～15 の空欄に入る語句を、語群のなかから選び記号で答えなさい。(各 1 点)

1924 (大正 13) 年、(1) 議長の清浦圭吾きようらいごが (2) に基礎をおく内閣をつくった。憲政会けんせいかい・革新倶楽部かくしんくらぶ・(3) 主流派は、衆議院を無視する特権内閣反対・憲政擁護・(4) 実現を主張して第二次護憲運動をおこし、(5) の連合が成立した。(5) は、政党政治の樹立や (4) の実現などを公約にかかげ、選挙で大勝した。その結果、憲政会総裁 (6) を首相とし、(3) 総裁の (7) と革新倶楽部党首の (8) が入閣する (5) 内閣が成立した。

(6) 内閣は、1925 (大正 14) 年、ふたたび高揚していた政治参加要求運動や社会運動の高まりに対応するため、(4) 法を成立させた。この法律は、男性 (9) 歳以上に選挙権を、(10) 歳以上に被選挙権を与えるものであり、女性は除外された。また政府は、(4) による (11) の台頭を危険視し、無政府主義者・社会主義者らの活動を取り締まる目的で (12) を成立させた。

(6) 内閣以後、1932 (昭和 7) 年の (13) によって (8) 内閣が倒れるまで、(14) の多数党の総裁が首相となる政党内閣制が慣習化された。これを (15) と呼ぶ。

【語群】

ア. 治安警察法ちあんけいさつぽう

オ. 枢密院すうみつゐん

ケ. 立憲政友会りっけんせいゆうかい

ス. 高橋是清たかはしこれきよ

チ. 無産階級

ナ. 中産階級

イ. 「憲政の常道」けんせい じょうどう

カ. 治安維持法ちあん い じ ぽう

コ. 普通選挙

セ. 衆議院しゅうぎ いん

ツ. 護憲三派こけんさん ぱ

ニ. 二・二六事件

ウ. 自由党じ ゆうとう

キ. 20

サ. 貴族院き ぞくいん

ソ. 府県会議員選挙

テ. 挙国一致きょこくいつ ち

ヌ. 「桂園時代」けいえん じ だい

エ. 加藤高明か とうたかあき

ク. 25

シ. 犬養毅いぬかいつよし

タ. 30

ト. 五・一五事件

Ⅵ. 次の各文の下線部分が正しければ○をつけ、間違っていたら正しい語句を書きなさい。

(各2点)

1. 日本における水稲農耕を基盤とする弥生文化は、北海道や南西諸島にはおよばず、南西諸島では縄文文化と呼ばれる食料採取文化が続いた。
2. 804（延暦23）年に入唐し、長安で密教を学んだ最澄は、帰国し真言宗を開いた。
3. 905（延喜5）年紀貫之らによって最初の勅撰和歌集である『万葉集』が編集された。
4. 琉球では、按司がグスクを拠点として勢力を広げていき、やがて山北（北山）・中山・山南（南山）の三つの勢力に統合されていった。
5. 17世紀前半「将軍のお藤元」である東京には、幕府の諸施設や全国の大名家敷をはじめ、旗本・御家人の屋敷が集中し、日本最大の都市となった。
6. 1774（安永3）年に前野良沢や杉田玄白らが西洋医学の解剖書を訳述した『西説内科撰要』は、画期的な成果であった。
7. 明治維新の変革は宗教にもおよび、1868（明治元）年に政府は王政復古による祭政一致の立場から、古代以来の神仏習合を禁じて神道を国教とする方針を打ち出した。
8. テレビ放送は1925（大正14）年に東京・大阪・名古屋で開始され、翌年にはこれらの放送局を統合して日本放送協会が設立された。
9. 1951（昭和26）年のサンフランシスコ平和条約調印後も、南西諸島はアメリカの施政権下におかれた。小笠原諸島が1953（昭和28）年、沖縄は1972（昭和47）年に日本に返還された。
10. 2011（平成23）年3月11日の阪神・淡路大震災における原子力発電所の事故などをきっかけに、日本のエネルギー政策そのものが問い直されている。

